

県民総ぐるみで大分っ子の 学力・体力の向上に取り組もう！

～『大分っ子学力・体力向上県民フォーラム』を開催～

11月29日(月)、別府市のピーコンプラザで、子どもたちの学力・体力向上に取り組む機運を高めるため、県教育委員会の主催で「大分っ子学力・体力向上県民フォーラム」を行いました。

県民の大きな関心事である子どもたちの学力・体力は、全国平均を大きく下回っている状況にあり、この状況を改善し、底上げを図ることは喫緊の課題となっています。フォーラムでは、学校や市町村教育委員会などが行っている効果的な取り組みを紹介して点から面へ広がるよう徹底を図るとともに、学力・体力向上に向け、保護者や地域だけでなく各界からの応援や期待の大きさを訴えていただきました。

学校関係者や市町村教育委員会、PTA、学校支援地域本部関係者、一般参加者など約600名が参加し、最後に県民総ぐるみで子どもたちの学力・体力の向上に取り組むことを誓い幕を閉じました。



※当日の概要や使用した資料は、県教育委員会ホームページに掲載されています。(http://kyouiku.oita-ed.jp/)

フォーラムの概要

学力・体力の現状について

大分県教育委員会 南 雅量 教育次長

小・中学生の学力・体力ともに、全国平均を大きく下回ることで、下位層の割合が高いこと、地域間の差が大きいことが課題としてあげられ、学力・体力向上のためには、学校・家庭・地域が連携していくことが重要である。

学力・体力向上への効果的な取り組み

宇佐市立四日市南小学校 小野壽尊 校長

「板書・ノート・宿題」の一体化と個別指導時間「南っ子タイム」の導入が、習熟度の低い子どもたちへの指導に有効である。

日出町立大神小学校 恒川英志 教諭(学力向上支援員)

毎週、日出町内の全小学校を訪問している。わかりやすい授業のためには、秋田県を参考にした「1時間完結型授業」による授業改善が効果的である。

大分教育事務所 加藤正和 所長

校長の授業観察や教員同士の互見授業を、より効果的に授業力向上に結びつけるために必要な具体的な視点が必要である。

豊後高田市立香々地小学校 松成富義 教頭

運動を日常化するには、毎日5分のトレーニングタイムを設けることが効果的である。

別府市教育委員会 成重幸一 指導主事

体育主任会や実技講習会を充実させ、体育授業の充実や運動好きな子どもの育成を市全体で取り組むことが重要である。

学校・家庭への応援や期待

吉本幸二 津久見市長

財政難であっても、教育環境の整備は行政の責任である。学校の統廃合には、保護者や教職員から反対があったが、子どもが一番よかったと言ってくれた。

姫野清高 大分県商工会議所連合会会長

働くことは自分のためであり、世の中のため。学校は子どもの成長に全力を注いで欲しい。それが大分の活力になる。子どもが国を愛する心を持つ意味を深く考えてもらいたい。

八川 徹 湯布院放課後子ども教室アドバイザー

学力向上も体力向上もやるのは子ども。大人は、子どものやる気を引き出すのが仕事。地域はいつでもサポートする。学校は遠慮せずどんどん投げかけてほしい。

富永大輔 大分県PTA連合会会長

「保護者心得6箇条」で学校にエールを送っている。先生も子どものお手本になってもらいたい。

大会メッセージ

大分県小中学校長会協議会

西本達男 会長(大分市立南大分小学校長) 読み上げ

大分県の子どもの学力・体力は、残念ながら全国平均を大きく下回り、下位層の割合が高い状況にあり、「このままではいけない」という県民の声はこれまでにない高まりを見せています。

子どもたちが将来何になるにしても基礎的な力をきちんと身につけさせることが必要です。これは、すべての県民の願いであり、ぜひとも実現しなければなりません。

「大分県に生まれたら子どもの教育に不利だ」とならないよう、今こそ、子どもの基礎的な学力・体力の向上に県民あげて取り組むことが必要です。

学力・体力を身につけさせるためには当然ながら学校でしっかりと教育が行われることが必要です。

しかし、学力・体力は生活習慣と大きな関連があり、学校だけの頑張りでは限界があります。家庭で親が、地域ではおじさん、おばさん、お兄さん、お姉さんが、みんなで取組まなければなかなか効果はあがりません。

さいわい、大分県には非常に効果をあげている市町村や学校があります。また、そうした取組を地域ぐるみで広げ、学力・体力の向上につなげようという機運も昨年から大きなうねりとなってきています。

このうねりを、県内にあまねく広げていきましょう。1人の100歩よりも100人の1歩が大事です。大分の子どもの学力・体力の向上を図るためにも、次のことを県民みんなで取組んでいきましょう。



- 学校では、教職員が授業力の向上を図り、効果の高い取組を点から面へ広げ、徹底します。また、家庭や地域にSOSを出し、一緒にやってほしいことを具体的に示していきます。
- 家庭では、親がまずは生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)と学習習慣をしっかりと身につけさせます。そして休日には親子で一緒に汗を流します。
- 地域では、自分の子どもが学校に通っていないなくても「我が事」として学校に関心を持ち、まず学校に足を運びます。できることは手伝います。